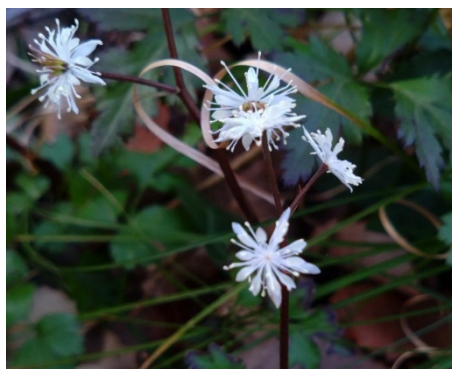


ーオウレンー



セリバオウレン (東京理科大学 植物園)
2024/03/07 撮影



オウレン (東京理科大学 生薬標本室)
2024/04/30 撮影

学名: *Coptis japonica* Makino (セリバオウレン: *C. japonica* var. *dissecta* Nakai)

生薬和名: オウレン (黄連)

科名: キンポウゲ科 (Ranunculaceae)

属名: オウレン属 (*Coptis*)

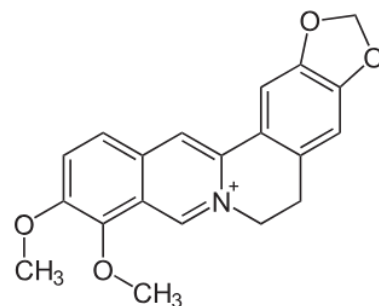
産地: 中国、日本

薬用部位: 根をほとんど除いた根茎

漢方処方: 黄連解毒湯、黄連湯、温清飲

主要成分: ベルベリン、パルマチン、コプチシン

主な薬効: 健胃、抗菌、鎮痙、利胆



ベルベリン

日本の山地樹林下に自生または栽培されている常緑多年草である。早春、花茎を出し、2~3 個の白色の 5 弁花を頂生する。袋果は輪生で、種子を多数内蔵する。葉は叢生し、長柄である。根茎はやや斜走し、多数のひげ根を出す。

根茎は和黄連 (ワオウレン)、根は毛黄連 (モウオウレン)と呼ぶ。

「黄連」という名は節状に珠が連なったようなひげ根を伸ばし、その断面が鮮やかな黄色であることが由来である。日本古来の名称は「カクマクサ」といい、硬い根の草という意味である。

主要成分であるベルベリンは、各種グラム陽性菌、陰性菌に幅広く抗菌作用を示す。その他に血圧降下、中枢神経抑制、鎮痙、利胆作用などが認められている。

【参考文献】

薬用植物学 改訂第 7 版 監修: 水野 瑞夫 南江堂

生薬単 改訂第 3 版 監修: 伊藤 美千穂, 北山 隆 著者: 原島 広至 株式会社 NTS

2024.4.30 4YP C.K.